

昭和五十五年一月招集

第一回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日 時	二
場 所	二
出席議員	二
欠席議員	二
出席説明員	二
出席事務局職員	二
議事日程	二
開 会	二
議長の報告	二
議案の配付	二
會議録署名議員の指名	三
会期の決定	三
議案第一号乃至議案第五号	三
提案理由の説明	三
流山源次郎君の質疑、当局の応答（議案第一号）	六
安西 益男君の質疑	六
神田 守隆君の質疑、当局の応答	六
石井 輝久君の質疑、当局の応答	七
黒川 平治君の質疑	八
委 員 会 付 託	八
総務委員会委員長報告	八
継続審査について	九
委員会付託の省略（議案第二号、議案第三号）	九

採 決（議案第二号、議案第三号）	九
安西 益男君の質疑、当局の応答（議案第四号）	一〇
藤田 益治君の質疑、当局の応答	一二
林 豊君の質疑、当局の応答	一三
委員 会 付 託 の 省 略	一四
採 決	一五
委員会付託の省略（議案第五号）	一五
採 決	一五
閉 会	一五
本日の會議に付した事件	一五

一、昭和五十五年一月二十九日（火曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一番 神田 守隆	二番 石 井 謙
三番 綱島 憲治	四番 横 溝 功
五番 福原 勤	七番 古賀 礼四郎
八番 石井 昌治	九番 松下 正己
一番 林 豊	一二番 栗原 一雄
一三番 近藤 好雄	一四番 渡辺 昭夫
一五番 伊藤 幸太郎	一六番 押 元 稔
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安沢 徳順	二九番 安西 益男
三〇番 山口 康	

一、欠席議員 二名

一〇番 穴戸 寿夫 二三番 菊井 敏博

一、出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小倉 澄男
収入 役 長谷川 広治	総務部長 鈴木 弘道
民生部長 鈴木 力	経済部長 太田 博雄
教育委員会 山口 武重	教育委員会 安田 豊作
委員長 山口 武重	
一、出席事務局職員	

事務局 長 高尾 豊 事務局員 佐 石井 敏夫

書 記 兵藤 恭一 書 記 鈴木 哲

書 記 庄司 徹 書 記 嶋田 範夫

一、議事日程

昭和五十五年一月二十九日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

議案第一号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費

に關する条例等の一部を改正する条例の

制定について

議案第二号 館山市青木町農道災害復旧事業分担金徴

収条例の制定について

議案第三号 館山市温井農道災害復旧事業分担金徴収

条例の制定について

議案第四号 昭和五十四年度館山市一般会計補正予算

(第四号)

議案第五号 昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計

補正予算(第二号)

開 会 午前十時三分開会

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数二十七名、これより昭和

五十五年第一回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開き

ます。

本臨時会議案審議のため、地方自治法第二百一十一條の規定によ

る出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありました

ので御了承願います。

○議長(石井 正君) ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書の配付をいたさせます。

配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長(石井 正君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

八番議員石井昌治君、二二番議員藤田益治君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長(石井 正君) 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。

お諮りいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて会期は本日一日と決定いたしました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第三、議案第一号乃至議案第五号の各議案を一括して議題といたします。

提案理由の説明

○議長(石井 正君) これより各議案の提案理由の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 昭和五十五年の輝かしい新春を迎え、市議会議員の皆さまとともに榮えゆく市の将来をことほぎ、合わせて市政の伸展をお祝いできますことは、私の心から喜びとするところであります。

議員の皆さまには、昨年中ひとかたならぬ御協力をいただきありがとうございました。

本年も市政伸展のため、よろしく御指導御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日急遽臨時市議会を招集いたし御審議をお願いいたします案件は、一般議案関係三件、補正予算関係二件であります。

まず、議案第一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてであります。現行の給料等の額は昭和五十三年六月に改定されたもので、その後、一般職職員の給与改定の実施また県下の多くの地方公共団体で特別職の給料等の改定、さらには消費者物価の上昇等を総合的に勘案いたしまして、本市といたしましても館山市特別職報酬等審議会に諮問いたしましたところ、去る一月二十一日答申を得ましたので、今回特別職の給料等の改正をしようとするものであります。

以下、順次、改正しようとする事項を御説明いたします。

まず、第一条は、市長の給料五十二万円を五十五万円に、助役の給料四十三万円を四十六万円に、収入役の給料四十一万円を四十三万五千円に改めようとするものであります。

第二条の改正は、館山市教育長の給料四十万円を四十三万五千円に改正することと、教育長の給料を館山市長、助役、収入役の給料の定め方に準じたので諸手当の支給についても同様な基準に改めようとするものであります。

第三条の改正は、館山市議会議員等の報酬を議長二十五万円を二十六万五千円に、副議長二十二万円を二十三万五千円に、議員二十万円を二十一万五千円に改めようとするものであります。

附則第一項につきましては、この条例は、昭和五十五年一月一日から適用しようとするものであります。が、教育長の給与に関する規定につきましては、二月一日から施行しようとするものであります。第二項につきましては、すでに支払った報酬及び給料の扱いを内払いにしようとするものであります。

次に、議案第二号館山市青木町農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定及び議案第三号館山市温井農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定についてであります。が、昨年十一月末の豪雨により被災した市内山本字青木町地先農道（延長十六・〇メートル、幅員二・五メートル）及び市内神余字温井地先農道（延長五・〇メートル、幅員二・一メートル）を農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律に基づく災害復旧事業として実施することに伴う受益者負担について、分担金徴収条例を新たに制定しようとするものであります。

まず、第一条の規定は、災害復旧事業の受益者負担を地方自治

法に基づく分担金として徴収することに関し、必要な事項を定めることを目的とするものであります。

第二条の規定は、分担金の総額について事業費の総額から国、県の補助金の額を除いた額の範囲内で、市長が定める旨の規定であります。

第三条乃至第六条の規定は、分担金を負担すべき受益者の範囲、分担金の積算基礎、納期限、減免等について定めた規定であります。

第七条の規定は、納期限までに納付されない分担金の督促に関し、地方自治法第二百三十一条の三第一項の規定により定められたものであります。

第八条第一項の規定は、納期限までに納付されない分担金の延滞金に関し、地方自治法第二百三十一条の三第二項の規定により定められたものであり、利率は市税の取り扱いと同じであります。

第八条第二項の規定は、延滞金の減免等についての規定であり、第九条は委任事項であります。

附則は、施行期日を定めたものであり、公布の日から施行しようとするものであります。

次に、議案第四号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算第四号についてであります。が、歳入歳出予算として、歳入歳出それぞれ八千二百九十九万一千円を追加し、歳入歳出それぞれ八十五億六千八百六十三万八千円にしようとするものであります。

この主なものとしては、衛生費としまして昨年十一月末の豪雨によるごみ埋立地土砂流出に伴う整地に係る自動車等借上料で百九万八千円、同じく昨年十二月末の強風により正木衛生処理

場の煙突に亀裂が入つたため、この補強と同時に煙道の補修等を実施したのでこの工事費として一千二百二十七万八千円。

農林水産業費としては、水田再編対策の推進を図るため国库補助金を財源として農道等補修用としてグレーダーを、また、転換水田の測量及び現地確認等のため自動車をそれぞれ購入するための関係経費で九百四十三万九千円。

商工費としては、現在建設中の鳩山荘の備品購入費等の財源に充てるため、国民宿舍特別会計に繰入金として五百万円。

教育費としては、東京都安房児童学園の児童生徒が那古小學校並びに第一中學校に入学している関係から、それぞれの學校に係る特別の整備費についてその一部を東京都に対して負担方を要請しておりましたところ、このたび、東京都から那古小學校特別教室の整備費として五百万円、また、すでに今年度予算で実施済みの第一中學校プール建設費として三百万円の負担をする旨内示を受けましたので、これらを財源として那古小學校校用器具費として五百二十五万七千円。本年四月の第三中學校開校に備えて第二中學校の一部、第四中學校並びに豊房中學校の備品を同校へ運搬するための経費として百九万一千円、現在建設中の第三中學校の運動場整備工事費等として三千三百六十七万六千円、建設以来九年を経過した温水プールについて、屋根及び外壁の腐食がはなはだしく強風による破損箇所もあり、早急に補修が必要となりましたので、この経費として八百五十万円。

災害復旧費としては、昨年十一月末の豪雨によります農業施設の災害復旧費として、四百七十万六千円の追加補正をお願いするものであります。

この財源として分担金、国、県支出金、市債等の特定財源で四千六百五十七万一千円、その他を地方交付税等の一般財源をもつて充当しようとするものであります。

このほか、債務負担行為の補正として、昨年十月の二十号台風被害に伴う被害漁業者への貸付金に対する損失補償並びに二件の地方債補正の追加があります。

次に、議案第五号昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計補正予算第二号についてであります。歳入歳出予算として、歳入歳出それぞれ一千九百四十四万七千円を追加し、歳入歳出それぞれ五億六百五十二万八千円にしようとするものであります。

鳩山荘については、現在建築中ですが、これが完成後、直ちに営業できるようにするため、建設に伴つて必要な備品、設備等の不足分の購入並びに利用客の増加を図るためのマイクロスプ購入費で二千七百万円を追加しようとするもので、これが財源としては、歳出の不用額、市債の追加分を充て、残り五百万円を一般会計からの繰入金をもつて充当しようとするものであります。

以上、上程します各議案に対する提案理由について御説明申し上げましたが、いずれの案件も急施を要するものであります。

何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で提案理由の説明を終わります。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより各議案の審議を行います。

まず、議案第一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について御質疑を願います。

○一八番（流山源次郎君） 議案第一号の館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてでございますが、当然の中には議員の歳費の値上げということが含まれていると思います。いま市長から趣旨説明がございまして、説明も十分わかりますが、結局世論と申しますか、地域一般の方から、議員に対する、非常勤の給料値上げということに對しては、いままでにない反応があらわれている状態でございます。われわれといたしましても、もつと、市のほうで議員として調査費とか、いろんなそういったことで必要であるというPRが行き届かないという現状におきましては、もう少し議員の歳費の値上げは延ばすべきではないかと思うのでございますが、この点につきまして説明を願います。

○市長（半澤良一君） ただいま議員さん方の歳費につきまして世間の情勢から考へて延ばすべきだという御意見のように承りましたけれども、先ほども御説明申し上げましたように現行の給料等は昭和五十三年六月に改定されたものでございまして、それ以来一年半を経過いたしましたので、その間いろいろ物価等の値上げもございましたし、また一般職の給料等の値上げもございましたが、特に議員の給料につきましては他地方公共団体、特に五万から十万ぐらいの都市におきます議員さんの給料等を勘案いたしましたので、やはりこの際六％程度のアップをすべきだと考えましたので御提案申し上げました次第でございます。

○一八番（流山源次郎君） 説明の趣旨はよくわかったわけでございますが、一応私どもといたしましては、あまりにも議員の報酬に対する一般の認識というべきものがないということで、一部でございしますが、慎重にしたいと思ひんでございますけれども、全協なんかで意思の統一を図るお考えはございませんか、お伺いいたします。

○議長（石井 正君） 市長に対する質問ですか。

○一八番（流山源次郎君） いまの質問の趣旨、市長さんとしてはどうお考えでしょうか。

○市長（半澤良一君） 私の考え方といたしましては、他団体等の給与を勘案をいたしまして、アップするのが適当であるというふうに考へておりますけれども、議員の皆さま方が御反対があるならば、この件につきまして再考をいたしてもよいと思つておりますけれども、全協等につきましては、これは議長さんの御判断にお任せいたしたいと思います。

○二九番（安西益男君） いま一八番議員さんからの御意見もありましたんですが、實際時期的にもうちよつと——一年半というところでございしますが、若干時期尚早じやないかという感を深めるわけでございまして、市民感情も非常にそういう点ではまたかという、そういういたものをちらほら聞いておりますし、各種団体等から場合によつては強い意見も聞いておりますので、いまま少しこのアップについては時期を遅らせたらどうかというふうに考へますが、合わせて議運がお願いできればそこで意見統一というものを図つていただけたらというふうに思います。

○一番（神田守隆君） この議員、それから市長、助役、収入役さ

んの給料並びに報酬のアップということでございますけれども、私ははつきり言ひまして、市民の同意を十分に得られるかということについては、十分市民の同意が得られるという状況ではないという判断をもっているわけでございます。

この点で、報酬審の答申で了解を得たということであるわけでございますが、報酬審の答申としては全員の方の十分な賛成が得られたのかどうか。

それと、また報酬審以外に市長さんがこの報酬のアップの問題について、市民の声について十分同意が得られるという自信があまりなかろうか。この点についての質問をいたしたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 報酬審議会の答申がございまして、全員賛成でございました。

また、これが市民の納得を得られるものと確信をいたしております。

○一九番（石井輝久君） 質疑ですから、一、二お伺ひいたしたいと思ひます。

御提案の市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の一号議案でございしますが、ただいまの提案説明で、前回五十三年六月にいまの条例が改定されたという御説明を承りました。参考のためにその前の条例改正、これは年月日をお示しいただきたい。それから、さらにさかのぼつて、その前はどうか。条例改正二回に遡及しまして、ちよつと御説明いただきたいと思います。

○総務部長（鈴木弘道君） ただいまの御質問にお答えいたします。

前回の改正は、先ほども申し上げました五十三年六月一日でございしますが、その前の改正は五十二年の四月一日でございします。その前回は四十九年十月一日でございします。

○一九番（石井輝久君） いずれにいたしましても、特別職の報酬でございしますから、市長、助役、収入役、これにつきましてはあるいは生活給かもしれませんが、議員の場合には通常私どもは生活給とは考えておられない。かといつて、要らないという考え方を保持しているものではないことはもちろんでございしますけれども、報酬審議会の答申があつたことはただいまの説明でよくわかりました。

一つ考えておりますのは、過去の議場での質疑もございましたが、館山市は一般職の給与で、特に行政職は、県下最高の平均給与十七万七千六百円ですか、先般御答弁いただいておる、だから特別職と直接結びつくとは思ひません、市長、助役、収入役は直接的な関連がある場合にはあると思ひます。しかし非常勤の特別職の議員は一般職の人員費と直接的な結びつきはないと思ひます。ただ考え方では、ただいまの市長の提案説明のように他の地方公共団体との関連とか、それから消費者物価の上昇ということもろたつてございします。とにかくわずか六万弱の館山市が一般職の給与で県下の最高であるという事実、それから人員費を押さえていく方法がいまのところ新規採用を控えるとか、そういうことだけで、あとは年々平均年令が——本年三十九歳、おそらく来年だと四十歳オーバーしやしないか、少なくとも再来年には四十歳を必ずオーバーしていきます。そういうた一般職の人員費が県下で最高であるということ等を勘案するときに、消費者物価の上昇とか、他の地方公共団体との均衡とかはわかりますけれども、この際は

どういふものかなという感を抱くわけでございますが、そこらのお考えいかがでしょうか。お考えをお伺いしたいと思ひます。

それと、慎重に御検討なさつて、市長、助役、収入役さんアップということに提案までに検討を重ねたと思ひますけれども、私も議員のほうに、私も自身の報酬の引き上げですけれども、何かそういったような御説明ないしは検討の中に——そういった御意向の御説明でもあつたのか。なかつたんじゃないかと思ひますけれども、そこらへんはどうだつたんですか。議会側の意向の打診等を行つたことがあるのか、合わせてお伺いいたします。

○市長（半澤良一君） 館山市の一般職の平均給与が最高だということですが、これは確かにそのとおりでございますけれども、御案内のように平均年令が高いために平均給与の絶対額が高いいふことで、やはり個々のケースについて、同一年令で同一年数を勤務した他の市の人と比べてみた場合には、決して高いほうではないわけでございます。世間並みの給料だというふうに考えております。

また、市長、助役、収入役の給与につきましては、やはり同一規模の地方公共団体等を勘案いたしまして決めたわけでござい

ます。それから、議員さんの給与につきましては、特に正式には議会の御意向を承りませんでした。従来も、五十二年のときも、五十三年のときも正式には承らないでやつてきましたので、その例に従いました。

○一七番（黒川平治君） ただいま審議されております報酬のアップでございますけれども、私は常勤特別職のアップはこれは仕方

がないと思ひます。ただ議員の報酬アップはやはり市民の経済状態からしてまだ少し早いではないかというような気がいたします。やはりできるならば議員はこのまま、常勤特別職のアップはこれは仕方がないと思ひます。

以上。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ありませんか。
暫時休憩いたします。

午前十時三十二分 休 憩
午後一時二十二分 再 開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終ります。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本案については所管の常任委員会に付託いたします。

直ちに常任委員会において審査をいたしますので、審査終了するまで暫時休憩いたします。

午後一時二十三分 休 憩
午後一時三十四分 再 開

○議長（石井 正君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

総務委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいまより議案第一号に対する総務委員

会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

(総務委員会委員長松下正己君登壇)

○総務委員会委員長(松下正己君) たいだいま総務委員会に付託されました議案第一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例について審査の経過を御報告申し上げます。

本案につきましては、なお慎重に審査を要するとの観点から、閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承賜りますようお願い申し上げます、委員長報告といたします。(拍手)

継続審査について

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり、本案につきましては慎重審査の必要上閉会中の継続審査といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

質 疑 応 答

○議長(石井 正君) この際お諮りいたします。

議案第二号館山市青木町農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定について及び議案第三号館山市温井農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定については一括して審議を行いたいと思ひます。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

御質疑を願ひます。御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よつて質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

議案第二号及び議案第三号の各議案については委員会付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

採 決

○議長(石井 正君) これより採決いたします。

採決は一括して行ひます。

議案第二号及び議案第三号の各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議案第二号及び議案第三号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） 次いで議案第四号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算について御質疑を願います。

○二九番（安西益男君） 若干お聞かせいただきたいんですが、ごみ処理場の煙突の修理ということでございますが、すでにこのごみ処理場につきましては延期五年の期間が過ぎ、さらにまた延期というような段階でございまして、何にしても一時的な修理ということで、次の予定地がはつきりしないということでは大変困るわけでございます。この予定地については現状ではどんなふうになつていますか。すでに五年前から予定地ということで相当苦慮されておつたわけでございますが、いまでもつて見込みはつかない状態にあるのか。あるいはまた、若干そういう目算がついている状態なのかという点が非常に重要になつてくるわけでございます。

最近、あそこの現状を見てまいつたわけでございますが、煙突も大変亀裂がきておるし、大変危険な状態、さらにまた投降口あたりも何か所か修理してあるということで、全般的に危険な状態相当無理の上にもさらに無理をして使っている状態でございまして、修理と同時にやはり予定地を選考するということが急務になろうかと思えます。そういう点で、現在の状況はすでに市長も認識していると思いますが、よく見られて次の予定地を積極的に対処願いたい、このように思ひわけでございますが、現状において予定地についてはどうかということが第一点。

それから、温水プールでございますが、これも非常に鉄骨がぼろぼろということで大変急務だと思えますが、三月いっぱい休館ということ、定期的にいまの時期がよかつたのか、もつと早く

やつたほうがよかつたのか、検討されたとは思いますが、ちょっと時期が遅いんじゃないかという感覚を持つわけでございますが、そういう点で修理の状況はどういうふうなことで、今後のあり方について、鉄骨あたりはやはりあいつたところの塩分、あるいは湿度といえますか、一般の建物より傷みが早いわけですから、鉄骨を隠すような方法でやるのか、修理のやり方について。

その二点についてお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 現在の正木処理場の老朽化の現状からいたしまして、新しい施設の候補地の選定につきましては、一日も早く用地の確保ということで、きわめて重要なことでございまして、ただいま候補地の選定につきましては慎重に検討をいたしておるわけでございます。候補地につきましては全域にわたりますして、なおかつ数カ所にわたりました検討を重ねておるわけでございます。何といたしまして近々用地の確保についてはさらに努力をいたす所存でございます。

それから、現在の正木処理場の現状からいたしまして、今回煙突補強工事ということで補正予算をお願いしているわけでございますけれども、これにつきましては、煙突に亀裂を生じまして、特に上部——上のほうから約五メートル下のほうに大きな亀裂を生じまして、このまま放置するわけにはいかなくなりまして、この補強工事をお願いするわけでございます。これは全面的な補強工事でございます。基礎の工事、あるいはまた地上十五メートル以上の約三十メートルの間、それぞれ鉄パイプで煙突をかぶせまして、キャスターで溶接をいたしまして補強いたすわけでございます。そのほかはしご部分につきましても修理を要しますので、

これも合わせて工事を行う、こういう予定のものです。

○教育長（安田豊作君） 温水プールの補修について御質問をいただきます。ありがとうございます。

遅かつたんじゃないかというお叱りでございますが、そういう反省もあります。実は、新年度予算で屋根と周壁をやる計画でありましたところが、この間の風で側壁が落ちたということで、急遽繰り上げて補正をお願いしよう、こういう考え方でございます。

いろいろ調べてみましたけれども、縦の柱やその他については完全であります。ただ横の棧といえますが、が、鉄でやつてあるものが薄かつたために腐つてしまつた、そのために側壁が落ちたわけでございます。建設課と連絡を取つて、いろいろ見積りをしてもらつて、設計してもらつておりますが、六百二十二平米、三回目になりますが、これで屋根が新しくかわることになります。それと側壁全部をかえるということで八百五十万の補正をお願いした、こういうことでございます。

ただ、風が入りますので、危険で休んでいるということでございます。まして、この修理ができれば完全なものになる、こういうふうに考えております。

○二九番（安西益男君） ごみ処理場でございますけれども、当然これは相当な工事でございますから、何日休みますか。その間の状況は心配はないのかということ。時期的に二月に入りますから年間を通してごみが少ない時期ではないかと思われましますけれども何日くらい予定されておりますか。

それと、ごみの埋立地といえますか、そういった点の見通しはこういったことに影響性があると思いますが、埋立地の確保がで

きるのか。そういうことを教えていただきたいと思ひます。

それから、温水プールでございますけれども、ただ回りを囲うというだけか。あるいは鉄骨がぼろぼろになつておりますから、もつと強いものも考えているのかどうか。そういう点もうちよつと突つ込んで工事のやり方について御説明いただきたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 正木処理場の煙突補強工事、なお合わせまして煙道補修工事を行うわけでございますが、煙突の補強工事につきましては約四十五日間工期がかかります。こういうことでございます。煙道補修工事につきましてはこの間合わせまして実施をいたすわけでございます。

この間は、ごみの焼却処理でございますけれども、煙突の補修工事につきましては一日休止すればよろしい、なお煙道につきましては五日間程度休止をいたせばよろしい、こういうことでございます。

それから、現在焼却しきれないごみにつきましては、神戸の大石地区の皆さま方の御理解、御協力を得まして、そこへ埋め立てを行つておるわけでございますが、ここにつきましてははばいっばいになりまして、新たな埋め立て地の確保につきましては検討してきたわけでございますけれども、幸いにいたしまして、現在のところ豊房、神余地区に地権者の方々の非常に大きな御理解、御協力を賜ることができると見通してございまして、それに関連いたしまして周辺のさらに取付道路の用地の所有者の方々とも話をしておるわけでございます。これにつきましては明るい見通してございまして、正式に埋め立て地としてお借りできる、こういうふ

うに予定をしている状態でございます。

○教育長（安田豊作君） さつき申し上げましたように、縦の柱についてはいまのところ完全であるし、ただし、あれをコンクリでまくとかという工事は大変むずかしい工事でございますので、そのままになると思います。横の棧は新しく取りかえます。内壁は新しくつめ直すことで、外壁は全部新しく取りかえる。こういう工事の計画をしております。

○二九番（安西益男君） わかりました。

一点、特に市長さんをお願いしたいわけですが、先ほど申し上げましたように、新しいごみの処理場、これは市長就任と同時に大きな問題だということで大変関心が持たれてきたわけでございますが、すでに五年も過ぎ、また新たに延期という段階でございますので、ひとつこの点は積極的。さらにまた、いま煙突を直しても全般的にまいつてきておりますから、もつともつと積極的な姿勢でもつて新しい処理場の敷地を御検討願いたい。この点を強く要望して終りたいと思います。

○二三番（藤田益治君） 一点お伺いいたしたいと思います。

教育費中に、三中の開設に伴いまして、二中の一部、あるいは四中、豊房等の備品を運搬するというふうに説明資料等に記載されておりますが、どのような内容で、どんな方法で運搬されるかお聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 三中に運んで使えるものというのは、第一番に子供の机は全部運ぶ予定でございます。そのほか特別教室の机については、一部戸だな類等が運ばれると思います。あと教材類がいろいろ細かいものまで運ばれる。こういうことになるう

かと思っています。

ここにお願ひした百九万一千円は、それを運搬するトラックの運賃と、運び出し、あるいは運び入れるための人夫賃を計算してございます。

○二三番（藤田益治君） おおむね方法等わかりましたが、時期的には当然四月から開校になろうかと思いますが、各校がおそらくスケジュール的には、二中が幾日とか、あるいは四中、豊房と区分けてやられると思いますが、たまたま一中の移転等の場合、旧校舎から新校舎に、おそらくあの時点では子供が自分の机を、距離的に近いということで、交通の緩和を見まして運搬されたと思うんですが、その方法でいくのか、あるいは子供の机を——おそらく四中にしろ、豊房にしろ遠方であるという面で、その方法は全部子供の机は交通事故等を勘案されて車で運搬されるものかどうかお聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 御心配いただいてありがとうございます。運搬の方法として問題点は、一つはいま御指摘のように距離が遠いということ、それから第二点が三中へ集まる生徒が二中とそれから四中から来る寄せ集めといえますか、まだ統制下にない子供たちでございます。そういう問題がありますので、できるだけ車で運搬したいというようなことで運搬の経費を予算化していただいたのは今回が初めてでございます。そういう意味でお願いしているわけでございます。

○二三番（藤田益治君） よくわかりました。

たしか一中の移転時の場合には、たまたま自衛隊の群司令ですか、等のお話の中で、おそらく要請があれば運搬に協力してもや

ぶさかじやないということで、自衛隊のトラックあたりの要請を仰いだやに仄聞しておるわけでございますが、その点も含めまして万全を期して移転を行つていただきたいということを要望いたします。

○一番（林 豊君） 一ページの農林水産業費でございますけれども、総務費とそれから振興費で合せて九百四十万円というお金を使つて、説明書を見ますと、水田利用再編対策のために農道補修用としてグレーダーを購入するんだ、もう一つは再編対策の推進を図るために、測量及び現地確認のためにライトバンと軽ライトバンを買う、こういうふうなことをうたつております。

推進をするために、こういう確認であるとか、グレーダーをお買いになつて農道を補修するということも結構でございますけれども、いま館山市の大部分の水田というのは、毎年のように基盤整備事業を逐次実施しつづつあります。最近の例では四十六年からもうすでに八年間にわたつて延々として工事は続いておりますわけでありまして、もちろんこの基盤整備事業というものは関連対策もかねてやつてくださるということで、一応計画の中には載つてあるわけでございます。しかしながら次から次へと新しい工事が発注をされてどんどん工事が進んでいくという中で、なかなか水田の乾田化というものが図れないというのが実情でございます。

すでに一次利用の指定を受けて、自分の田で使っているわけでございますけれども、四十六年あたりにやつた田はいまだにそのまま放置されている。いままでは休耕という制度がございました、休んでいれば金をもらえんだということで、政府が金をくれたものですから、実際に転換水田の測量だとか現地確認という

ふうなものはあまり厳正に行われていない。

こういうふうに私は判断するわけですが、こういう問題について、もう少し市が実際に農民のために転換した水田が利用されているか、どうしたら高度に利用できるかというようなことを考へになつたことがあるか。そのためにグレーダーをお買いになつたということであれば、まだまだほかに水田を乾田化するような機具も買つて与えるべきではないか。あるいはまた県の耕地課との交渉をさらに進めて、そうしてなるべく早く乾田化をしてもらい、そうして水田の再編成をしていただくというようなことを考へになつたことがあるかお尋ねいたします。

○経済部長（太田博雄君） ただいまグレーダー等の件のお話でございますが、グレーダーにつきましては現在建設課に一台あるわけでございますけれども、これは四十二年に購入いたしましたもので、当時二十五馬力というものでございましたけれども、現在に至りましてはその五分の一の力しかないようなグレーダーでございます。所管は建設課でございますけれども、過去におきましても使用できる範囲で、能力の中で、農地あるいは学校整地、いろいろやつておつたわけでございますけれども、たまたま耐用年数、あるいは部品の調達も困難な状態になつてきたわけでございまして、今回これを購入する計画を立てたわけでございます。

さらに、自動車の関係につきましても、もつと的確な確認をしてもらいたいということでございますけれども、その一端といったしまして、いままで自動車がなくていろいろ困難をきたした中で、今回二台を購入いたしました、さらに御指摘のございましたような調査を厳密にしたいと思つておるわけでございます。

他の機具を買つたらどうかということでございますけれども、これはまた検討させていただきたいと思ひます。

耕地課との協力の点でございませうけれども、さらにまた協議をもちまして、私たちも参りまして、いろいろ今後とも話し合いをもつて、さらによい方向へもつていきたいと思ひます。

〇一番(林 豊君) 御趣旨よく御理解申し上げてゐるわけでございますけれども、実際、私個人の意見で恐縮でございますが、このグレーダーを使う場合に有料でやるのか、無料でやれるのか。また、農家がそういうものを、実際水田利用の再編成に有効に使うことができるのかどうか。もしそういうふうなものがあつたら手続きはどんなふうになさるつもりであるかどうか。こういうような細かい計画もお聞かせいただきたい。

それから、これは私見でございますけれども、暗渠排水をやらないという、全然水田は乾田化はできません。もうすでに、四十六年あたりに基盤整備を実施したものは暗渠排水ができてなければならぬわけでございます。先ほど申し上げましたように次から次へと新しい工事が出てきますので、なかなかそういうものは置きざりにされてしまつて、ただ田んぼができて、あぜができて、平らなものになつたからいいやということ、放置されてゐるのが現在の実情でございます。

そういうわけで、私は、あるいは応急の措置として、ことしもおそらく二八%という大量の稲作の減反をしなければならぬというような事態が起こつてゐると思ひますので、早急に乾田化するような機具ができないものか。聞くところによりますと、彈丸暗渠排水掘削機というふうなものがあつて、農家は簡単に自

分でやれるというふうなこともあるやに聞いております。

そういうようなことで、なるべく水田の再編を厳正に行うからにはそれだけ指導をしてやらなければならぬというふうに考えますので、そのへんの御研究をお願いをしたらわなければならぬというふうに私は考えますので、先ほどの農家がグレーダーを利用する場合の手続きだとか、料金だとか、どんなときに貸してくれるだろうかというふうなことをお聞かせ願ひたいと思ひます。

〇経済部長(太田博雄君) グレーダーの使用料についてでございますけれども、いままでございましたとおり、原則としては料金を取らないということと考えております。

また、場所等につきましては、そのときの状況に依りまして検討いたしたいと思ひます。

さらに、乾田化の機械につきましては、いまお話がございましたけれども、私のほうもちよつと研究不足でございますので、早速検討に入らしていただきたいと思ひます。

〇一番(林 豊君) いまの当局の御理解結構でございます。

農民がだんだん自分の水田の利用を狭められるというのが実情でございますので、再編成をし、転換しても困らないような指導をしていただきたい。それに対するいろいろな機具等も十分に見てやつていただきたいということを要望いたしまして、質問を終ります。

〇議長(石井 正君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案のとおり可決されました。

次いで、議案第五号昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計補正予算について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

本案を原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案のとおり可決されました。

閉 会 午後二時六分閉会

○議長（石井 正君） 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。

よつて、これにて第一回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第一号乃至議案第五号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員

石井 正
石井 昌
後田 益治

